

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第1期	◎川上智志、瀬谷智美	
講義区分	授業科目名		
基礎分野	総合基礎②		2単位 30時間

【科目概要】

- ・高齢者の特性（認知症含む）について学び、高齢者の身体的特性を体感する。
- ・介護保険制度について学び、高齢者を取り巻く環境及び制度について理解する。
- ・福祉用具の使用目的、適応等を学び、正しい使用方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・高齢者の身体的特性（認知症含む）を理解し、高齢者の動きや身体の使い方について具体的なイメージを持つことができる。
- ・介護保険制度について学び、事例に対して適切な対応をすることができる。
- ・福祉用具の使用目的、適応等を学び、適切に使用することができる。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

授業内試験及び実技試験を総合して成績評価を実施する。

【使用教材】

教科書『柔道整復師と機能訓練指導』及び配布プリント

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	高齢者の身体的特性①	講義
2	高齢者の身体的特性②	講義
3	高齢者の身体的特性③	講義
4	高齢者の身体的特性④	講義
5	高齢者の身体的特性⑤	講義
6	介護保険制度①	講義
7	介護保険制度②	講義
8	介護保険制度③	講義
9	まとめ	講義
10	高齢者と福祉用具①	講義
11	高齢者と福祉用具②	講義
12	高齢者と福祉用具③	講義
13	高齢者と福祉用具④	講義
14	高齢者と福祉用具⑤	講義
15	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第1期、2期	担当教員 今田正人	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学③		2 単位 60 時間

【科目概要】

ヒトは身体の外部や内部の情報を感覚器を介して受容し、神経系を介して伝達、処理、反応を行って生きている。この様な身体の制御機構（神経・感覚器系）の構造と機能を理解するために必要とされる形態学的分野に関する基礎的事項を学習する。

【到達目標】

1. 神経系の構造と機能について学び、各区分の構造の名称やつながりを説明できる。
2. 感覚器の構造と機能について学び、各部位の構造の名称やつながりを説明できる。
3. 体表解剖や映像解剖の基礎を学び、資格試験に備える。

【授業外における学習方法】

予習として授業の前に講義範囲を最低1回は教科書を通読し、不明な事項を授業で理解する。復習を各回毎に最低1時間以上は行い、講義項目を整理して理解に努める。

【成績評価方法】

資格試験に準拠した多枝選択式による定期試験を行う。
各期末試験の点数で評価する（100点満点で評価し、60点以上を合格とする）。
不合格の場合、再追試験を行う。
最終成績は第1期と第2期の点数を平均する。

【使用教材】

教科書：解剖学（第2版、医歯薬出版）

【その他】

授業は項目ごとに講義形式で行うので講義に毎回出席する。
各項目の解剖学的基礎知識を学び、資格試験にそなえて各自の自学自修の方法を確立する。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	神経系の基礎1（授業について、神経系の区分、神経組織） p 217～220	講義
2	神経系の基礎2（中枢神経系の発生と区分、脳室系、髄膜） p 220～223	講義
3	脳の形態と機能1（終脳） p 223～225	講義
4	脳の形態と機能2（終脳） p 225～226	講義
5	脳の形態と機能3（間脳、松果体、下垂体） p 226～227、 p 236～237	講義
6	脳の形態と機能4（中脳） p 227～228	講義
7	脳の形態と機能5（橋・小脳） p 228～230	講義
8	脳の形態と機能6（延髄） p 228～229	講義
9	脊髄1（区分、内部構造） p 230～232	講義
10	脊髄2（反射路、下行性伝導路） p 233, 236～238	講義
11	脊髄3（上行性伝導路、中枢神経系の血管系） p 233～235、 p 135～137、 p 145	講義
12	自律神経1（総論、副交感神経系） p256～259	講義
13	自律神経2（交感神経系） p256～259	講義
14	体表解剖1 p 275～296	講義
15	第1期定期試験の解説	講義
16	脳神経1（総論、嗅神経、視神経、動眼神経） p239～241	講義
17	脳神経2（滑車神経、三叉神経、外転神経） p241～242	講義
18	脳神経3（顔面神経、内耳神経、舌下神経） p 242～243、 p 245	講義
19	脳神経4（舌咽神経、迷走神経、副神経） p243～245	講義
20	感覚器1（外皮） p261～264	講義
21	感覚器2（視覚器） p265～270	講義
22	感覚器3（平衡・聴覚器） p270～273	講義
23	感覚器4（筋紡錘、腱器官、味覚器、嗅覚器） p264～265、 p 273～274	講義
24	脊髄神経1（総論、頸神経叢） p245～247	講義
25	脊髄神経2（腕神経叢） p247～250	講義
26	脊髄神経3（胸神経、腰神経叢） p250～252	講義
27	脊髄神経4（仙骨神経叢、陰部神経叢） p252～256	講義
28	体表解剖2 p 275～296	講義
29	映像解剖 p 297～304	講義
30	第2期定期試験の解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年生)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026 年度	2年生 1・2期	岩田 幸一	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	生理学②		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

人体が備えている様々な機能について学び、柔道整復師として知っておくべき臓器の働きおよびその調節機構を理解する。必ず事前に教科書を読んで、授業内容を予習してきてください。また、授業に関するプリントを配布しますので、その日の授業内容について復習も欠かさず行ってください。授業の内容について疑問が生じた場合にはそのままにせず、教員に質問してその場で理解するよう心掛けてください。

【講義概要】

生理学とは健康なヒトの身体の仕組みと働きを扱う学問であります。そのため、細胞内器官の様々な働きおよび臓器と臓器の機能的な関係を学ぶ必要があり、機能だけでなく細胞や臓器の解剖学的な特徴に関する内容を含めた講義を実践する予定です。

【成績評価方法】

- ・定期試験（90％）と出席日数（10％）の合計によって評価します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とします。
- ・単位取得に満たない（不合格）生徒には、補講、補習と同時に課題提出を求め、追試験を実施します。

【授業の特徴・形式】

各授業の項目ごとにあらかじめプリントを配布し、その内容に沿って講義を進めます。講義の初めには先週の復習、終了その日に行った講義内容に対する試験およびその解説を行います。

【教科書・参考書】

教科書：生理学、改訂第4版、南江堂、彼末一之編集
参考書：標準生理学、第9版、医学書院

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	骨の生理学(2) p135-p138	講義
2	骨の生理学(2) p135-p138	講義
3	循環(1) p139-p143	講義
4	循環(2) p143-p145	講義
5	循環(3) p145-p149	講義
6	循環(4) p151-p153	講義
7	循環(5) p153-p157	講義
8	呼吸(1) p159-p161	講義
9	呼吸(2) p161-p163	講義
10	呼吸(3) p163-p164	講義
11	呼吸(4) p164-p168	講義
12	呼吸(5) p168-p169	講義
13	呼吸(6) p169-p170	講義
13	試験前講義	講義
14	試験前講義	講義
15	試験問題解説	講義
16	尿の生成と排泄(1) p171-p177	講義
17	尿の生成と排泄(2) p177-p180	講義
18	尿の生成と排泄(3) p180-p182	講義
19	栄養・代謝(1) p183-p188	講義
20	栄養・代謝(2) p188-p192	講義
21	栄養・代謝(3) p192-p197	講義
22	消化と吸収(1) p197-p200	講義
23	消化と吸収(2) p200-p209	講義
24	消化と吸収(3) p209-p214	講義
25	体温調節(1) p215-p218	講義
26	体温調節(2) p218-p220	講義
27	体温調節(3) p221-p222	講義
28	試験前講義	講義
29	試験前講義	講義
30	試験問題解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第1期、2期	小堀 孝浩	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	運動学		2 単位 60 時間

【科目概要】

授業は運動学の基礎を学び、運動に関わる身体の機能や構造について学習する。また、動画を鑑賞し、筋肉の触察の方法などを学び、活かせるようにする。具体的には、①運動学の基本を学ぶ。②筋や関節などの理解を深め、運動機能を理解すると共に、触察できるようになる。③正常な運動を学ぶことで、異常な運動とその度合いを理解できるようになる。

【到達目標】

これまで学んできた解剖学や生理学等の知識を土台に、身体の運動の仕組みや機能の理解を深める。そして、臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。

【授業外における学習方法】

教科書で復習するだけでなく、筋肉や神経の走行を自分や友人の身体でイメージしたり、実際に触ったり、動かすことで、身体で覚えるようにする。それにより、卒業後の臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。

【成績評価方法】

- ・ 定期試験（中間試験と期末試験）にて評価する。
- ・ 中間試験は、100点満点で評価する。
- ・ 中間試験が60点未満の者でも、試験後の課題を提出した場合、中間試験の点数を60点にする救済措置をとる。
- ・ 期末試験も、100点満点で評価する。
- ・ 全体の評価は100点満点（中間試験の点数40%と期末試験の点数60%の合計の点数）で評価し、60点以上で合格とする。

【使用教材】

- ・ 運動学（医歯薬出版株式会社）の教科書を使用
- ・ 担当教員が毎回授業資料を配布
- ・ 筋肉や神経についての解説や触診のオリジナル動画を視聴

【その他】

- ・ 授業の進行状況により、筋肉の触診の実技もできる時があれば取り組む。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション、運動学の目的、運動の表し方 p.1-8	講義
2	身体運動と力学① p.9-22	講義
3	身体運動と力学② p.9-22	講義
4	運動器の構造と機能 p.23-40	講義
5	神経の構造と機能 p.41-50	講義
6	運動感覚① p.51-56	講義
7	運動感覚②、反射と随意運動① p.51-68	講義
8	反射と随意運動② p.57-68	講義
9	四肢と体幹の運動(上肢帯の運動と筋肉) p.69-77	講義
10	四肢と体幹の運動(肩関節の運動と筋肉) p.78-86	講義
11	中間試験、試験解説、実技①	講義
12	四肢と体幹の運動(肘関節と前腕の運動と筋肉) p.87-94	講義
13	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動と筋肉①) p.95-113	講義
14	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動と筋肉②) p.95-113	講義
15	試験解説、1学期のまとめ、実技②	講義
16	四肢と体幹の運動(股関節の運動と筋肉①) p.114-124	講義
17	四肢と体幹の運動(股関節の運動と筋肉②)、(膝関節の運動と筋肉①) p.114-130	講義
18	四肢と体幹の運動(膝関節の運動と筋肉②)、(足関節と足部の運動と筋肉①) p.125-145	講義
19	四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動と筋肉②) p.131-145	講義
20	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動と筋肉) p.146-150	講義
21	四肢と体幹の運動(頸椎の運動と筋肉) p.151-160	講義
22	中間試験、試験解説、実技③	講義
23	四肢と体幹の運動(胸椎と胸郭の運動と筋肉) p.161-166	講義
24	四肢と体幹の運動(腰椎、仙椎、骨盤の運動と筋肉) p.167-172	講義
25	四肢と体幹の運動(顔面、頭部の運動と筋肉) p.173-177	講義
26	姿勢① p.177-189	講義
27	姿勢② p.177-189、歩行① p.190-196	講義
28	歩行② p.197-203	講義
29	歩行③、運動発達 p.204-224	講義
30	試験解説、1学期と2学期のまとめ、運動学習 p.225-230	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第1期、2期	担当教員 山内 直子	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 病理学概論	2 単位	60 時間

【科目概要】

病理学では、病気の原因について深く考察し、人間の体のしくみや形態が病気によってどのように変化していくのかを学びます。

【到達目標】

全身の様々な病気を、原因によって整然と分類しながら学び、病態を理解して説明できるようになること。

【授業外における学習方法】

授業後に、その日学習した授業内容を教科書と授業資料(教科書に沿っています)でしっかり復習してください。

【成績評価方法】

前期・後期の定期試験(各100点満点)で評価します。

【使用教材】

病理学概論 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版

【その他】

遅刻をせず、授業中真面目な態度で学習に取り組むことが病理学理解への近道です。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	病理学とは何だろう？(p1-4)	講義
2	疾病の一般(p5-8)	講義
3	細胞傷害(p9-15)	講義
4	代謝障害と疾病(p16-22)	講義
5	老化～死(p22-28)	講義
6	血液の循環障害(p29-36)	講義
7	血栓症～浮腫(p36-44)	講義
8	脱水症～高血圧(p44-48)	講義
9	進行性病変(p49-56)	講義
10	移植～炎症(p57-65)	講義
11	炎症の分類(p66-70)	講義
12	免疫の仕組み(p71-75)	講義
13	前期のまとめ	講義
14	前期の復習	講義
15	試験解説講義と後期への導入	講義
16	免疫不全、自己免疫疾患(p76-80)	講義
17	アレルギー(p80-84)	講義
18	腫瘍の概念(p85-92)	講義
19	早期癌～癌の診断と治療(p92-99)	講義
20	腫瘍の分類(p100-107)	講義
21	主要な癌(p107-112)	講義
22	先天性異常(p113-118)	講義
23	奇形(p119-126)	講義
24	内因(p127-132)	講義
25	栄養障害～放射線(p133-140)	講義
26	光線～化学的外因(p141-145)	講義
27	生物学的外因(p146-150)	講義
28	後期のまとめ	講義
29	後期の復習	講義
30	試験解説講義と病理の世界	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第1期、2期	担当教員 河野 通	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 一般臨床医学①		2 単位 60 時間

【科目概要】

- ・柔道整復師にとって臨床医学は現場において常に意識しなければならない知識と技術である。
- ・一般臨床医学では診察の基本と疾患概念を具体例を示しながら説明する。
- ・診察技術として視診・触診・打診を詳細に説明する。

【到達目標】

- ・診察技術のうち視診・触診・打診を実施でき、その所見から診断に至ることができるようになる。
- ・身体所見から鑑別すべき疾患を2つ以上挙げることできる。
- ・診断に至ったのち、その疾患の特徴を列記し、治療方法を提示できる。

【授業外における学習方法】

- ・講義にて配布した資料を復習する。
- ・過去の試験問題を参考に専門的知識の習得を心がける。

【成績評価方法】

定期試験にて評価する。

評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。

出席率、授業態度及び定期試験で総合的に判定します。

100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

【使用教材】

一般臨床医学 改訂第3版 医歯薬出版株式会社

【その他】

- ・目の前の患者さんの訴えを真摯に受け止めることが大切です。診察の際は医療専門家としての態度を身につけましょう。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	診察の意義、診察の進め方、医療面接、視診の意義、体格・体型、体位・姿勢、 P1～11	講義
2	肥満とやせ、精神状態、異常行動、 P11～15	講義
3	異常行動、歩行皮膚の状態、 P15～22	講義
4	頭部・顔面の視診、頸部の視診胸部の視診、腹部の視診、背部・腰部の視診、四肢の視診 P22～34	講義
5	打診、聴診、触診の意義と方法、 P34～42	講義
6	触診 P42～52	講義
7	生命兆候、感覚検査 P52～65	講義
8	反射検査 P65～75	講義
9	発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛、 P75～86	講義
10	浮腫、肥満、 P86～90	講義
11	やせ、心電図検査、脳波検査、筋電図検査、P90～98	講義
12	呼吸器疾患 P99～105	講義
13	呼吸器疾患 P105～109	講義
14	呼吸器疾患 P109～114	講義
15	試験の返し・解説	講義
16	循環器疾患 P115～119	講義
17	循環器疾患 P119～122	講義
18	循環器疾患 P122～129	講義
19	消化器疾患 P129～136	講義
20	消化器疾患 P136～141	講義
21	消化器疾患 P142～150	講義
22	消化器疾患 P150～156	講義
23	代謝疾患 P156～165	講義
24	代謝疾患 P165～172・内分泌疾患 P172～176	講義
25	内分泌疾患 P172～181	講義
26	内分泌疾患 P181～184	講義
27	内分泌疾患 P184～185・血液・造血器疾患 P185～191	講義
28	血液・造血器疾患 P191～195	講義
29	血液・造血器疾患 P195～197	講義
30	試験の返し・解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 河野 通	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 一般臨床医学②		1 単位 30 時間

【科目概要】

- ・柔道整復師にとって臨床医学は現場において常に意識しなければならない知識と技術である。
- ・一般臨床医学は診察の基本と疾患概念を具体例を示しながら説明する。
- ・診察技術として視診・触診・打診を詳細に説明する。

【到達目標】

- ・診察技術のうち視診・触診・打診を実施でき、その所見から診断に至ることができるようになる。
- ・身体所見から鑑別すべき疾患を2つ以上挙げることできる。
- ・診断に至ったのち、その疾患の特徴を列記し、治療方法を提示できる。

【授業外における学習方法】

- ・講義にて配布した資料を復習する。
- ・過去の試験問題を参考に専門的知識の習得を心がける。

【成績評価方法】

定期試験にて評価する。

評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
出席率、授業態度及び定期試験で総合的に判定します。

100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

【使用教材】

一般臨床医学 改訂第3版 医歯薬出版株式会社

【その他】

- ・目の前の患者さんの訴えを真摯に受け止めることが大切です。診察の際は医療専門家としての態度を身につけましょう。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	腎・尿路疾患 P198～209	講義
2	腎・尿路疾患 P210～214	講義
3	腎・尿路疾患 P214～217	講義
4	腎・尿路疾患 P217～220	講義
5	神経疾患 P220～228	講義
6	神経疾患 P228～231	講義
7	神経疾患 P231～234	講義
8	神経疾患 P234～236	講義
9	感染症 P236～251	講義
10	感染症 P236～251	講義
11	リウマチ P252～255	講義
12	膠原病 255～262	講義
13	膠原病 255～262	講義
14	アレルギー 262～263、環境因子による疾患 P263～265	講義
15	試験の返し・解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第1期、2期	担当教員 佐藤卓弥	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 整形外科学	2 単位	60 時間

【科目概要】

- ・ 整形外科において感染症、外傷や障害（スポーツ含む）、腫瘍、変性疾患、代謝疾患、骨系統疾患など運動器疾患は多岐にわたり、運動器系の構造と機能を理解して、疾患についての臨床上必要な基礎的知識を、全身あるいは部位別に習得する。

【到達目標】

- ・ 整形外科が対象とする運動器疾患について、疾患の概要や診断、治療についての臨床上必要な基礎的知識を、全身あるいは部位別に習得する
- ・ 整形外科的な診察・検査法や治療法を理解する。疾患の機序、病態や症状、診断、治療を理解する。

【授業外における学習方法】

- ・ 整形外科学だけでなく、解剖学、生理学、運動学、病理学など関連する資料を、教科書も含めて精読する。

【成績評価方法】

- ・ 定期試験【100%】にて評価する
- ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする
- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する

【使用教材】

- ・ 整形外科学（改訂第4版）南江堂
- ・ 資料を配付する

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	運動器の基礎知識 p.3-14	講義
2	整形外科診察法, 整形外科検査法 p.15-40	講義
3	整形外科的治療法 p.41-54	講義
4	骨・関節損傷総論 p.55-71	講義
5	スポーツ整形外科総論, リハビリテーション総論 p.73-83	講義
6	各論: 感染性疾患 p.85-88	講義
7	各論: 骨および軟部腫瘍 p.89-99	講義
8	各論: 非感染性軟部・骨関節疾患 p.99-114	講義
9	各論: 全身性の骨・軟部疾患 p.114-126	講義
10	各論: 骨端症, 四肢循環障害 p.126-135	講義
11	各論: 神経・筋疾患(神経麻痺と絞扼性神経障害, 腕神経叢損傷・分娩麻痺) p.136-142	講義
12	各論: 神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患, 脊髄腫瘍, 脊髄損傷) p.143-148	講義
13	各論(体幹): 頸部 p.149-158	講義
14	各論(体幹): 胸部 p.158-162	講義
15	各論(体幹): 腰部(1) p.162-169	講義
16	各論(体幹): 腰部(2) p.162-169	講義
17	各論: 肩関節・肩甲帯(1) p.170-187	講義
18	各論: 肩関節・肩甲帯(2) p.170-187	講義
19	各論: 上腕・肘関節(1) p.188-202	講義
20	各論: 上腕・肘関節(2) p.188-202	講義
21	各論: 前腕, 手関節 p.202-209	講義
22	各論: 手・手指 p.209-215	講義
23	各論: 骨盤・股関節(1) p.216-229	講義
24	各論: 骨盤・股関節(2) p.216-229	講義
25	各論: 大腿・膝関節(1) p.230-246	講義
26	各論: 大腿・膝関節(2) p.230-246	講義
27	各論: 下腿・足関節(1) p.246-255	講義
28	各論: 下腿・足関節(2) p.246-255	講義
29	各論: 足・足趾 p.255-264	講義
30	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 佐藤卓弥	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道整復術の適応		2 単位 30 時間

【科目概要】

- ・ 一般臨床医学, 外科学, 整形外科学で学んだ知識を再整理し, 柔道整復術の適応を判断できることを目的とする.

【到達目標】

- ・ 一般臨床医学, 外科学, 整形外科学の知識を整理し, 総合的な視点を習得する.
- ・ 一般臨床医学, 外科学, 整形外科学での課題を横断的に解釈することを習得する.

【授業外における学習方法】

- ・ 科目横断的な内容であるため, 整形外科学を中心として教科書や資料を十分に読む.
- ・ 国家試験の過去問などに触れて, 科目横断的に問われる医学的知識の関連性を構築する.

【成績評価方法】

- ・ 定期試験【100%】にて評価する
- ・ 100点満点で評価し, 60点以上で合格とする
- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には, 補講, 補習, 課題提出を実施し, 追再試験を実施する

【使用教材】

- ・ 医療の中の柔道整復 南江堂
- ・ 問題資料を配付する

【その他】

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	内臓疾患の投映を疑う疼痛	講義
2	腰痛を伴う疾患	講義
3	化膿性炎症, 軟部組織の圧迫損傷	講義
4	血流障害を伴う損傷	講義
5	末梢神経損傷を伴う損傷(1)	講義
6	末梢神経損傷を伴う損傷(2)	講義
7	脱臼骨折	講義
8	外出血を伴う損傷	講義
9	病的骨折および脱臼	講義
10	意識障害を伴う損傷(1)	講義
11	意識障害を伴う損傷(2)	講義
12	脊髄症状のある損傷	講義
13	呼吸運動障害を伴う損傷	講義
14	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
15	高エネルギー外傷	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第3期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道②		1 単位 30 時間

【科目概要】 武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

【到達目標】
講道館柔道「投の形」から技の理合を学び柔道の理解を深める。
礼法・受身・投の形を通じて形式を重んじ、相手と協力する心を身に付ける。

【成績評価方法】
出席回数
(各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。また受験後の場合は実技点数を含まない。)
授業準備、授業意欲・態度、実技試験、(出席回数以外で実技試験が出来ない学生はレポート)にて評価する。
授業意欲、態度50点、実技試験(レポート)50点の合計100点

【授業の特徴・形式】
柔道実技(礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技、投の形)

【使用教材】
柔道 (南江堂)

【その他】
講義は各自の柔道衣を着用して受講すること。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	「投の形」の歴史とその意義	実技
2	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践導入	実技
3	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践導入	実技
4	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践導入	実技
5	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践導入	実技
6	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践導入	実技
7	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践導入	実技
8	「投の形」における手技の理論と実践	実技
9	「投の形」における腰技の理論と実践	実技
10	「投の形」における足技の理論と実践	実技
11	「投の形」における(手技・腰技・足技)の理論と実践	実技
12	「投の形」における(手技・腰技・足技)の理論と実践	実技
13	「投の形」における(手技・腰技・足技)の理論と実践	実技
14	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古	実技
15	柔道総復習	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第1期	立田 春	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学① 骨折下肢①		1 単位 30 時間

【科目概要】

本講義では、下肢骨折の発生機序、病態、評価方法、保存療法および観血療法、リハビリテーションの基礎について学ぶ。特に柔道整復師として必要な骨折の整復・固定・後療法に関する知識を最新の根拠に基づいて理解することを目的とする。

【到達目標】

下肢骨折の種類と発生機序を説明でき、代表的な下肢骨折の評価法を理解し、適切な鑑別ができる。
骨折の保存療法と観血療法の適応と方法を理解し、柔道整復師としての固定法や後療法に関する基本的な知識を習得する。最新のガイドラインやエビデンスに基づいた骨折治療の知識を身につける。

【授業外における学習方法】

指定された教科書の該当箇所を事前に読み、講義内容の理解を深める。

【成績評価方法】

定期試験（筆記）：80%
小テスト・レポート：10%
授業への参加態度：10%

【使用教材】

教科書：『柔道整復理論 第7版』医歯薬出版
参考書：「クリニカル・レクチャー柔道整復実践技術」MEDICAL VIEW出版、関連論文等

【その他】

柔道整復師として、基本的な知識を習得し、実際の臨床現場で活用できるようにする。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	下肢骨折の総論(分類、疫学)p.100-110	講義
2	大腿骨骨折(大腿骨頸部骨折)p.111-120	講義
3	大腿骨転子部骨折p.121-130	講義
4	大腿骨骨幹部骨折p.131-140	講義
5	大腿骨遠位端骨折p.141-150	講義
6	膝関節周囲骨折(脛骨近位端骨折)p.151-160	講義
7	下腿骨骨折(脛骨・腓骨骨幹部骨折)p.161-170	講義
8	足関節骨折(外果・内果骨折)p.171-180	講義
9	足関節骨折(両果・三果骨折)p.181-190	講義
10	足根骨骨折(踵骨骨折)p.191-200	講義
11	足根骨骨折(距骨骨折)p.201-210	講義
12	中足骨・趾骨骨折p.211-220	講義
13	骨折の診断法(X線、CT、MRI)p.221-230	講義
14	骨折治癒のメカニズムp.231-240	講義
15	骨折の保存療法(ギプス固定)p.241-250	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第2期	立田 春	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学② 骨折下肢②		1 単位 30 時間

【科目概要】

本講義では、下肢骨折の発生機序、病態、評価方法、保存療法および観血療法、リハビリテーションの基礎について学ぶ。特に柔道整復師として必要な骨折の整復・固定・後療法に関する知識を最新の根拠に基づいて理解することを目的とする。

【到達目標】

下肢骨折の種類と発生機序を説明でき、代表的な下肢骨折の評価法を理解し、適切な鑑別ができる。
骨折の保存療法と観血療法の適応と方法を理解し、柔道整復師としての固定法や後療法に関する基本的な知識を習得する。最新のガイドラインやエビデンスに基づいた骨折治療の知識を身につける。

【授業外における学習方法】

指定された教科書の該当箇所を事前に読み、講義内容の理解を深める。

【成績評価方法】

定期試験（筆記）：60%
小テスト・レポート：30%
授業への参加態度：10%

【使用教材】

教科書：『柔道整復理論 第7版』医歯薬出版
参考書：「クリニカル・レクチャー柔道整復実践技術」MEDICAL VIEW出版、関連論文等

【その他】

柔道整復師として、基本的な知識以外に臨床現場に立った際のインフォームドコンセントに必要な「伝える力」をレポートを通して身に付けていく。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	骨折の観血療法(髄内釘・プレート固定)p.251-260	講義
2	合併症(偽関節、遷延治癒)p.261-270	講義
3	小テスト(前半の復習)	講義
4	骨折後のリハビリテーションp.271-280	講義
5	高齢者の骨折とその治療p.281-290	講義
6	スポーツ外傷としての骨折p.291-300	講義
7	小児の骨折(成長軟骨損傷)p.301-310	講義
8	骨折と全身管理(DVT予防)p.311-320	講義
9	最新の骨折治療法(再生医療)p.321-330	講義
10	柔道整復師の役割と法律p.331-340	講義
11	ケーススタディ①	講義
12	ケーススタディ②	講義
13	小テスト(後半の復習)	講義
14	総復習	講義
15	期末試験	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第1期	吉田 晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学③ 体幹・下肢脱臼		1 単位 30 時間

【科目概要】

この授業では、体幹と下肢の脱臼各論について学ぶ。
1年次履修した総論を基本として、各部位の特徴的な症状や合併症、治療法等を学ぶ。

【到達目標】

各脱臼の分類、概要、症状、合併症を説明できるようにする。

【授業外における学習方法】

1年生で学んだ総論が基礎となるので、事前の復習を薦める。

【成績評価方法】

- ① 出席状況、授業態度も考慮する。※定期試験点数から減点方式
- ② 中間試験：30% 期末試験：70% 合計100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
- ③ 単位取得に満たない(不合格)生徒には課題を実施し、再試験を実施する。

※出席時数が2/3に満たない者は評価を受けることができない(担当教員が点呼とる時点で判断します)
(担当教員が点呼した時点で着席しているか否か)

【使用教材】

配布プリント・柔道整復学 理論編・柔道整復学・実技編

【その他】

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	顎関節脱臼①（解剖・症状）	講義
2	顎関節脱臼②（整復法～まとめ）	講義
3	股関節脱臼（概説～合併症）	講義
4	股関節脱臼（合併症～後方脱臼）	講義
5	股関節脱臼（前方脱臼、演習）	講義
6	膝関節脱臼、確認問題	講義
7	演習問題	講義
8	中間試験	講義
9	足関節脱臼	講義
10	膝蓋骨脱臼（概説）	講義
11	膝蓋骨脱臼（症状）	講義
12	膝蓋骨脱臼（治療）～リスフラン関節脱臼	講義
13	中足趾節関節脱臼	講義
14	総まとめ①（演習）	講義
15	総まとめ②（演習）	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第1期、2期	瀧下晃洋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学④		2 単位 60 時間

【科目概要】

教科書に記載されている理論と臨床現場における処置等、理論に沿ってしっかりと技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導する。

【到達目標】

筋、骨、靭帯、関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、
- ・その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・期末試験に加え、各期ごとに授業内で中間試験を実施する
- ・各試験における点数を評価に反映させる比率は【中間試験30%】【期末試験70%】とする
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【使用教材】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【その他】

- ・遅刻、早退は開始、終了の各30分以内までとする。原則1時間以上の授業参加を出席とする
- ・自己申告のない遅刻、早退は欠席扱いとする
- ・交通機関の遅延に伴う遅刻、早退は証明書の提出があればその限りでない

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	ガイダンス	講義
2	橈骨近位端部骨折	講義
3	肘頭骨折	講義
4	橈骨骨幹部骨折	講義
5	ガレアジ骨折(逆モンテギア骨折)	講義
6	前腕骨骨折 実技	実技
7	確認試験	講義
8	尺骨骨幹部骨折	講義
9	モンテギア骨折	講義
10	橈尺骨両骨骨幹部骨折	講義
11	橈骨遠位端部骨折1	講義
12	橈骨遠位端部骨折2	講義
13	橈骨遠位端部骨折 実技	実技
14	前腕骨骨折 復習	講義
15	試験解説	講義
16	ガイダンス	講義
17	手根骨骨折1	講義
18	手根骨骨折2	講義
19	中手骨骨折1	講義
20	中手骨骨折 整復・固定実技	実技
21	確認試験	講義
22	試験解説・指の解剖	講義
23	中手骨骨折2	講義
24	基節骨骨折	講義
25	中節骨骨折	講義
26	末節骨骨折	講義
27	前腕骨骨折 キャスト固定 実技	実技
28	前腕骨骨折 キャスト固定 実技	実技
29	指骨骨折 復習	講義
30	試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026 年度	履修課程 2年生 第1期	担当教員 大木 正浩	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復術の臨床的判定		2 単位 30 時間

【科目概要】

柔道整復師の範疇を越えた外傷を施術することで患者に後遺症が生涯残ってしまうかもしれない。さらには初期処置が誤れば死につながりうる。将来の注意すべき傷病をしっかり覚え、臨床で生かせるように学ぶ。また柔道整復師ができる画像観察として超音波観察機器があるので、各組織がどのように映るのかを体感してほしい。

【到達目標】

柔道整復師が臨床において施術できる傷病かどうかを判断できるようになる。

柔道整復師が評価に用いても良いとされている超音波観察装置を用いて正常な筋、靭帯などの各組織を判別できる。

【授業外における学習方法】

授業前は教科書の該当ページで予習し、授業当日には復習を行うことを勧める。

【成績評価方法】

小テストは以下の計算式で学期評価点に反映する。 $50点 \times 正解率$ (正解数/全問題数)

学期末評価点は、以下2つの合計点(合わせて最高100点)

- ①小テスト 50点
- ②学期末テスト 60点

【使用教材】

できる限り補足資料を載せたプリントを中心に授業を効率良く進めていく予定である。

【その他】

【 講義の内容・日程 】				
回	講義内容		備考	
1	1	柔道整復術の適否を考える 2 損傷に類似した症状を示す疾患	P1-15	講義
2	3	血流障害を伴う損傷 4 末梢神経損傷を伴う損傷	P16-30	講義
3	5	脱臼骨折 6 外出血を伴う損傷	P31-42	講義
4	7	病的骨折および脱臼	P43-51	講義
5	8	意識障害を伴う損傷 9 脊髄症状のある損傷	P52-63	講義
6	10	呼吸運動障害を伴う損傷	P63-72	講義
7	11	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 12 高エネルギー外傷 13 医用画像の理解	P73-81、P83-88	講義
8	13	医用画像の理解	P89-99、P121-128	講義
9	超音波観察装置の実技			講義
10	"			講義
11	"			講義
12	"			講義
13	"			講義
14	予備日			講義
15	テスト解説			講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部(午前)
開講年度 2026年度	履修課程 2年生 第1期	担当教員 煙山 奨也 菊地 正	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技④		1 単位 30 時間

【科目概要】

柔道整復師は臨床の場において各種検査・測定を実施し、適切な評価を行うことが求められる。検査・測定は患者に対して行うものであるため、正確な手技の習得に加え、適切な患者対応が重要となる。本科目では、柔道整復師に必要な検査・測定および患者対応について、実技を通して理解と技能の習得を図る。

【到達目標】

- ・ 検査・測定の安全性および患者への配慮を理解し、適切に実施できる。
- ・ 柔道整復師が臨床の場において実施する各種検査・測定を、適切な手順で実施できる。
- ・ 検査・測定の目的・意義および医学的根拠を理解し、それらを説明できる。
- ・ 検査・測定は患者に対して行うものであることを理解し、適切な患者対応およびコミュニケーションを行い、ラポール形成を意識した対応ができる。

【授業外における学習方法】

- ・ 医療人として相応しい言動や態度を日常生活においても常に意識して行動すること。
- ・ 授業で学んだ検査・測定の手順および目的・意義について復習し、検査手順を整理して反復練習を行うこと。
- ・ 検査・測定の理解には柔道整復学、解剖学、生理学の知識が重要であるため、関連科目の復習に努めること。

【成績評価方法】

- ・ 原則、授業内で実施する実技試験にて評価する。出席が2/3に満たない者は評価しない。
- ・ 授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。
- ・ 授業内で実施する確認テストを平常点として加味することがある。

【使用教材】

- ・ 配布プリント

【その他】

- ・ 医療人としてふさわしい身だしなみおよび態度を心掛け、授業に臨むこと。
- ・ 授業時の服装は原則として白衣とする。別途指示があった場合はそれに従うこと。
- ・ 医療人としてふさわしくない言動や態度が認められた場合は、即時退室を命じ、当該時間は欠席とする。
- ・ 臨床現場での知識と経験を授業に落とし込み、実践的に教えていく。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	ガイダンス、医療面接	実技
2	コミュニケーション技法	実技
3	身体計測	実技
4	知覚検査・腱反射	実技
5	第1～4回 総合/まとめ	実技
6	徒手筋力検査法(上肢)	実技
7	徒手筋力検査法(下肢)	実技
8	関節可動域(上肢)	実技
9	関節可動域(下肢)	実技
10	第6～9回 総合/まとめ	実技
11	徒手検査法	実技
12	徒手検査法	実技
13	総合復習	実技
14	総合復習・まとめ・確認	実技
15	総合復習・まとめ・確認	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第3期	立田 春	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑤(治療実技)		1 単位 30 時間

【科目概要】

柔道整復術の実技指導を行い、スポーツ選手、高齢者、社会人（40~50代）の各対象者に対する適切な施術方法を修得する。実践的な技術向上を目的とし、臨床現場で即応できる能力を養う。

【到達目標】

柔道整復術の基本的な施術技術を理解し、実践できる。各年齢層・対象者（スポーツ選手・高齢者・社会人）に適した施術方法を選択し、適用できる。患者の状態に応じた適切な評価と治療計画を立案できる。臨床現場での応用力を高めるための実践的能力を養う。

【授業外における学習方法】

授業後にペアワークや自主練習を行い、技術の定着を図る。

【成績評価方法】

出席・態度（40%）
実技試験（40%）
レポート提出（20%）

【使用教材】

包帯固定学(南江堂)

【その他】

授業中はペアワークを重視し、実技練習を多く取り入れる。
学生同士の相互評価を行い、技術向上のためのフィードバックを実施する。
接骨院で実践してきた臨床現場での知識と経験を授業に落とし込み、実践的に教えていく。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復の基本概念/基本固定具の確認、適応症と禁忌事項	実技
2	包帯法の基本と巻き方	実技
3	包帯法の巻き方と適切な圧の掛け方	実技
4	包帯法/ストレッチ療法	実技
5	包帯法/スポーツ外傷予防のストレッチング	実技
6	包帯法/高齢者に向けた運動療法の検討	実技
7	包帯法/高齢者に向けた運動療法の検討	実技
8	包帯法/社会人向け腰痛治療・腰痛の評価・施術・運動療法	実技
9	包帯法/不良姿勢に対するアプローチ	実技
10	包帯法/問診時の適切な姿勢と、質問項目	実技
11	包帯法/下肢筋肉の疼痛性筋痙攣に対する適切な施術	実技
12	包帯法/殿部周囲の筋緊張に対する適切な施術	実技
13	包帯法/ウィンドラストラス機構の良好な運動性獲得に対する施術	実技
14	包帯法(肩関節)	実技
15	包帯法(足関節)	実技
16	包帯法(試験)	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第2.3期	紺野 直能 大林 典弘 菊地 正 井口 良平	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑥		2 単位 60 時間

【科目概要】

柔道整復術とは「整復、固定、後療法」である。各外傷に対する非観血療法の処置を実践し、それを体得することが臨床上必須になる。本講義では、各外傷の固定方法を固定具の作成から学び実践していく。

【到達目標】

学習した柔道整復術の内容を十分に理解し、実践する事が出来るようにする。

【授業外における学習方法】

柔道整復学（理論編・実技編）による予習、復習で学習すること。

【成績評価方法】

出席率、授業態度および実技試験で総合的に判断し、100点満点で評価する。

出席回数

(各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。試験後の場合は試験点数を含まない。)

【使用教材】

柔道整復学 理論編 南江堂

柔道整復学 実技編 南江堂

【その他】

講義は各自の白衣着用して受講すること。(装飾品は全て外すこととする。)

配布された各裂数の包帯を持参して講義を受けること。

臨床現場で行ってきた実務経験を基に、実践的に授業で伝えていく。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	鎖骨骨折	実技
2	鎖骨骨折	実技
3	上腕骨骨幹部骨折	実技
4	上腕骨骨幹部骨折	実技
5	コーレス骨折	実技
6	コーレス骨折	実技
7	第5中手骨骨折	実技
8	第5中手骨骨折	実技
9	下腿骨幹部骨折	実技
10	下腿骨幹部骨折	実技
11	肋骨骨折	実技
12	肋骨骨折	実技
13	肩鎖関節上方脱臼	実技
14	肩鎖関節上方脱臼	実技
15	肩関節前方脱臼	実技
16	肩関節前方脱臼	実技
17	肘関節後方脱臼	実技
18	肘関節後方脱臼	実技
19	手第2指PIP関節背側脱臼	実技
20	手第2指PIP関節背側脱臼	実技
21	アキレス腱断裂	実技
22	アキレス腱断裂	実技
23	膝関節内側側副靭帯損傷	実技
24	膝関節内側側副靭帯損傷	実技
25	足関節外側靭帯損傷①	実技
26	足関節外側靭帯損傷①	実技
27	足関節外側靭帯損傷②	実技
28	足関節外側靭帯損傷②	実技
29	足関節外側靭帯損傷③	実技
30	足関節外側靭帯損傷③	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	2年生 第2期	瀬谷 智美、菊地 正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	高齢者・競技者の外傷予防	1 単位	30 時間

【科目概要】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

高齢者を取り巻く環境・制度、身体的特性を学び、機能訓練指導員としての知見を深める。

≪ 競技者の外傷予防 ≫

運動生理学、外傷の発生要因、メディカルチェック、コンディショニング（ストレッチ、テーピング、筋力トレーニング等）を学び、競技者の外傷予防に対する知識を学ぶ。

【到達目標】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

高齢者の特性を理解し、それを踏まえた運動プログラムの立案ができる。

多職種連携の重要性を理解し、高齢者の自立支援について適切な対応をすることができる。

≪ 競技者の外傷予防 ≫

メディカルチェック各項目の意義を理解し、患者の評価を的確に行うことができる。

コンディショニングの方法を理解し、競技特性に応じた外傷予防を提案することができる。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

授業内試験及び定期試験の成績を踏まえて評価を行う。

≪ 競技者の外傷予防 ≫

授業内試験及びレポートの成績を踏まえて評価を行う。

【使用教材】

≪ 高齢者の外傷予防 ≫

教科書「柔道整復師と機能訓練指導」、配布資料

≪ 競技者の外傷予防 ≫

教科書「競技者の外傷予防」、配布資料

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師と介護保険、発達と老化の理解、認知症の理解	実技
2	高齢者自立支援の理解	実技
3	機能訓練指導員と機能訓練指導①	実技
4	機能訓練指導員と機能訓練指導②	実技
5	機能訓練指導員と機能訓練指導③	実技
6	機能訓練指導員と機能訓練指導④	実技
7	まとめ	実技
8	1. 運動生理学の概要	実技
9	2. 競技者の外傷予防 概論	実技
10	3. 競技者の外傷予防のための実技①	実技
11	3. 競技者の外傷予防のための実技②	実技
12	4. 種目別の外傷予防とその実際①	実技
13	4. 種目別の外傷予防とその実際②	実技
14	4. 種目別の外傷予防とその実際③	実技
15	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員(代表)	
2026 年度	2年生 第1・2・3期	紺野直能 井口良平 ○菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習②		2 単位 90 時間

【授業の到達目標およびテーマ】			
・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院や救護現場で行われる検査・処置を理解する。			
【講義概要】			
・学校附属臨床実習施設以外での学校指定臨床実習施設にて実践的施術を体験をする。			
・スポーツ現場などでの救護活動を通じて柔道整復師としての施術を習得する。			
・3年生時に行う臨床実習への足掛かりとし、将来につながる技術の研鑽に努める。			
【成績評価方法】			
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現とする。			
・学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、まとめる。			
【授業の特徴・形式】			
・見学実習を主とするが、実習指導者のもと、一部実技形式とする。			
【教科書・参考書】			
・学校教育で使用する教科書全般			
【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	臨床実習 方法	・各臨床実習施設毎にて実施する。	
2		・各臨床実習施設の事情を踏まえた時間配分を可能とし、合計90時間となれば可とする。	
3			
4		外部の連携接骨院	
5		・医療面接・診察・徒手検査・物理療法・固定法など	
6			
7		スポーツ大会などの救護活動	
8		▶活動の種類	
9		フットサル大会救護	
10		バスケット大会救護	
11		八丈島老人機能訓練	
12		練馬少年野球救護	
13		障がい者スポーツ救護	
14		練馬区柔道救護	
15		練馬区柔道大会救護	
16		埼玉県柔道大会救護	
17		練馬わんぱく相撲救護	
18			